



指導計画の立て方

—指導者の思いが伝わる指導計画—

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂寅夫

その一 新教育課程全面実施に向けた指導計画

2021年4月の新教育課程全面実施に向け、校内研修や各種研修会にて、新学習指導要領改訂の基本的考え方や授業における具体的な展開の在り方等について理解が進められているところと思います。ベテランの先生方はこれまでも教育課程改訂の経験をされ、その対応についてはおおよそ予測されずに対策を講じておられるかと思えます。しかし、改訂が初めての経験である若い先生方にとってはいろいろな悩み、不安を感じる時期でしょう。新教育課程の基本的考え方や「主体的・対話的で深い学び」について理論上は理解できたという状況でも、いざ実践となると、どのように年間指導計画を立て、単元ごとの指導計画はどうあるべきか、1時間ごとの指導の工夫はどうすべきかについては、最も頭を悩ませる現実的な課題です。そこで新教育課程全面実施に向けて経験の少ない若い先生方に向け、「指導計画をどう立てるか」を今回のテーマとしたいと思います。指導計画を考える前に、まずは「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」を何度も読み、基本的考え方と内容をきちんと理解することが大切です。

ポイント①



新教育課程の基本的考え方と内容をきちんと理解すること

その二 移行措置期間の指導計画

新教育課程の全面実施に向けて平成30年度より移行措置が実施されており、我が国の領土に関わる内容の取り扱いについて、各分野において内容の充実を図ることとされています。現行の地理的分野の「(2)日本の様々な地域 ア日本の地域構成」において、移行措置の内容として、新学習指導要領の「領域の範囲や変化とその特色」について以下のような取り扱いをすることとされています。

- 我が国の国土は多数の島々から成り、広大な広がりをもつ海洋国家としての特色をもっていること。
- 竹島や北方領土が我が国の固有の領土であること。これらの領土問題における我が国の立場が歴史的にも国際法上も正当であること。
- 尖閣諸島については我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないこと。

今年度及び次年度については、新入生が3年次・2年次には新教育課程全面実施になるため、それに合わせて地理的分野・歴史的分野の配当時数は次のようになります。

地理 (旧) 120 → (新) 115

歴史 (旧) 130 → (新) 135

地理的分野は5時間の減少となり、「世界の様々な地域の調査」の時は「0」となりました。「世界の諸地域」の各州で、主題を追究する学習において調べる視点や方法を身につけさせる学習をあわせて行うことが大切です。領土

問題を含め、今年度及び次年度の年間配当時数を考慮した指導計画が必要です（移行措置の詳細は帝国書院ウェブサイト*を参照）。

ポイント②



今年度・来年度は移行措置を
ふまえた指導計画で実施すること

その三 2年間を通した 指導計画の立て方

現行学習指導要領の地理的分野において1年生から2年生までの2年間で配当されている時数は120単位時間であることは周知のとおりです。しかし各学校においては、非常変災や学校行事等を勘案して120より減少した時数で指導計画を作成しています。帝国書院のウェブサイトでは106単位時間を配当しており、さらに移行措置期間では100単位時間、新教育課程では98単位時間を配当しています（※の平成31年度・32年度対応年間指導計画案を参照）。これは時数のみを考えた標準的な指導計画です。学校の教育計画は、各教科の学習のみならず総合的な学習の時間、道徳科、特別活動を含め、総合的に生徒及び地域の実態をふまえて作成されるもので、とくに新教育課程は「社会に開かれた教育課程」として学校の方針・教員の思いが生徒・家庭・地域社会に伝わるものにしなければなりません。そのためには学校の方針・教員の思いを明確にする必要があります。各学校においては、職員会議や校内研修会等で年度末の学校評価をもとに次年度の方針を立て教育課程を編成し、これにもとづいて次年度の社会科の指導計画が立てられます。生徒や地域の実態をふまえて、例えば以下のような過程で指導計画が立てられるでしょう。

○社会科の学習における**本校の課題**は何か。

- 本校の生徒に**育成すべき能力**は何か。
- そのために**重視すべき学習活動**は何か。
- どの単元**で重視すべき学習活動を行うか。
- その**単元にかける時間**は何時間か。

2年間を見通した指導計画を作成する際の留意点として、「トラの巻②」、「トラの巻③」において以下のように示しています。

- 「世界の諸地域」の学習順序は、生徒の興味関心や実態をふまえ、工夫をほどこしてメリハリのあるものにする。
- 「日本の諸地域」の学習順序は、中核的事象の系統化を考えたものにする。
- 観点別評価の重点化と系統化による習熟の度合いを考慮したスパイラルな指導と評価の展開を考える。

1年生の前半では、基礎的基本的知識・概念の定着を図る学習や地図、雨温図、写真、統計・グラフ等の資料の読み取りの技能を育成する学習に重点をおきましょう。1年生の後半では、前半で育成した基礎的基本的知識・概念、資料活用の技能を生かした思考・判断・表現の活動を取り入れたいものです。2年生の「日本の様々な地域」の前半では、地図、雨温図、統計・グラフ等の資料の読み取りの技能の向上を図る活動、後半の「日本の諸地域」では上記に示した観点別評価の重点化と系統化による習熟の度合いを考慮したスパイラルな指導と評価の展開を工夫した指導計画とすることが大切です（詳しくは「トラの巻③」を参照）。

ポイント③



指導者の思いが反映されたメリハリ
のある指導計画を作成すること

その四 単元の指導計画の作成

新学習指導要領においては、授業の改善として「**主体的・対話的で深い学び**」が求められています。現行学習指導要領においても思考力・

判断力・表現力等の育成が求められ、各学校において言語活動の充実を図った活動が工夫されてきました。新教育課程においてはそれに加え、さらに「見方・考え方」をふまえた「深い学び」の展開が求められています。「深い学び」を行う単元においては「単元を貫く問い」の在り方がポイントです。これについては「トラの巻⑯」、「トラの巻⑰」で示した「中心資料・中心発問・補助発問・関連資料」が参考になると思います。

これをふまえて「世界の諸地域」においては「ヨーロッパ州」で「EU統合の成果と課題」という主題を設定し「深い学び」を重点的に行う場合、「日本の諸地域」においては「中部地方」で「産業の立地と変遷」、「関東地方」で「市街地の拡大の変遷と課題」を中核的考察とし、これらの地方の学習で「深い学び」を重点的に行う場合のそれぞれの単元の学習順序と時数配分の一例を以下に紹介しています。この例では、世界も日本も自然環境と国・地域・地方の産業・生活とのかかわりが比較的理解しやすいところから始め、用語・概念が複雑で理解しにくいと思われるところを後半にまわし、「日本の諸地域」の学習では学校が位置する地方を身近な地域の調査につなげるために最後に実施する学習順序としました。時数配分については、「深い

〈世界の諸地域〉

- オセアニア州（3）→○北アメリカ州（5）
- 南アメリカ州（5）→○ヨーロッパ州（7）
- アフリカ州（3）→○アジア州（6）
- ※帝国書院の年間指導計画案よりオセアニア州とアフリカ州をそれぞれ1時間削減し、ヨーロッパ州に2時間加える。

〈日本の諸地域〉

- 九州地方（4）→○北海道地方（3）→
- 東北地方（4）→○中国・四国地方（5）
- 近畿地方（5）→○中部地方（6）→
- 関東地方（8）→「地域の在り方」につなげる。
- ※帝国書院の年間指導計画案より九州地方・北海道地方・東北地方をそれぞれ1時間削減し、中部地方に1時間、関東地方に2時間加える。

学び」を行う単元に多くあて、ほかの単元をその分減らした軽重をつけた配分としました。

「世界の諸地域」、「日本の諸地域」の単元の中で加除修正しましたが、「深い学び」にさらに時数をかけたいという考えならば、ほかの単元も含めた加除を工夫する必要があります。学習指導要領の範囲内で教科書の学習順序や標準的な指導計画にとらわれることなく、指導者の思いが反映された指導計画が作成されることを期待します。

以下は「南アメリカ州」において「深い学び」を実現するために、東京都の若手の先生が実践された指導計画です。本実践は、「トラの巻⑯」のポイント④で「『深い学び』にするためには、さまざまな立場からの資料を用意すること」と示したように、深い教材研究をもとに多面的・多角的考察のためにさまざまな立場の意見、根拠となる資料を用意し探究する場面を設けた指導計画で、実践した先生の思いが伝わるものでした。

〔南アメリカ州〕（6時間扱い）

—熱帯林の伐採は是か非か—

- ①南アメリカ州の自然環境
- ②多様な民族と人々の生活—民族の多様化—
- ③多様な民族と人々の生活—日系人の活躍—
- ④大規模化する農業と工業の発展
- ⑤アマゾンの熱帯林をどう考えるか
 - ・熱帯林伐採の原因と課題
 - ・熱帯林伐採について、開発農家の立場、先住民・伝統的農家の立場、環境保護団体の立場、工業関係者の立場から資料をもとに、伐採賛成・反対、経済発展優先・後回しかを考える
- ⑥熱帯林伐採について、前時の学習をもとに日本の立場としてどう考えるかを、個人→グループ→学級全体→個人の考えで再構築する

ポイント④



「深い学び」のために単元の軽重を考えた指導時数の配分をすること